年中行事と幼児教育

清水エミ子

子どもたちは節分の日に、家庭では豆をまく(空に)。そしてまいた豆をひろってたべたりする。

幼稚園ではお話を聞いたり、お面を作ったり、そのお面をかぶって豆まきをする。(福の神の面をかぶった子が鬼の面をかぶった子に豆をぶつける) まねだけする園もあるが、これは、豆まきごっこ遊びなのだろうか?

私たちは、生活指導で物をほうらない、けんかをしても物をぶっつけない、石をなげない、などを指導しているのに、社会の行事だから一種の遊びだからといって豆まきを幼稚園で保育活動にとりあげるのはおかしいのではないか? と毎年毎年節分がくるたびに疑問がうずまくのです。今年も節分が近づき、私の心は苦しみだしました。週案の打ち合わせの職員会の時、豆をまきあう事をやめて、今までとちがう型の節分を行なおうと発言したのです。しかし、幼稚園でやめても家庭でやるのだから幼稚園でやってもよいのではないか、それは、理屈でむずかしく考えたらきりがない、軽く遊びの一種と考えよう、(行事は多かれ少なかれ問題はあるが) 節分は歴史的な行事だし季節感を知らせる大切な時だ、(歴史的行事は大切にしたい)、家庭で行なわない幼児に社会の行事を知らせるよい時期である。

ということで、割りきれない気持のまま(幼稚園は一種の奨励の場でもあるから、描いたり作ったりなどの活動を奨励する場として軽く行なおうなどと、自分なりに正当らしい理由をみつけ無理な納得を自分でして)、「泣いた赤鬼」の幻燈をして次の日お面作りを自由あそびの時自由にしていたら、子どもから大きなばくだんをおとされてしまったのです。

「どうして食べられる豆をぶっつけて捨てちゃうのかしら、だれも何にもいわないお窓にぶっつけちゃうのね。でもね、鬼がいるんだね、先生」とふしぎそうな顔で私をみあげて話しかけたのはひろみちゃんです。

「こないだやった幻燈、ちょっとおかしいね。だって豆まきって、鬼って悪いやつだからするんでしょう。そんなのにあの赤鬼は(泣いた赤鬼)いい鬼だったじゃない。あの赤鬼は角が一コ(一本)しかないからいい鬼なのか、一本角がいい鬼で、二本角が悪い鬼なのか。」とわかったようなわからないようなことをいって準一は部屋からでていってしまいました。

私はこの二人のことばをきいて、ますます行事(単元外活動)の

取り上げ方に疑問と不安がましてきたのです。

そして幼稚園で取り上げる行事について、もう一度反省してみる必要を強く感じました。

●現行の社会の行事に大部分の教師が、何の反省も、考えもなしにのっかってしまい、そのままをずるずると行なってきている。

●先輩教師が行なってきた行事保育をそのまま毎年無批判に行なってきている人が多い。

●この行事の持つ正しい意味を知らず、それを取り上げることにより、子どもたちに何をあたえるかの根本目的をつかんでいない。

●子どもがその行事をどう認識してどう受けとめているか、を考えず一方的にあたえっぱなしである。

これらの事が、子どもたちに疑問を持たせてしまったのだと強く反省されました。

そこで私は、幼稚園での(活動としての)社会行事（年中行事）の取り上げ方を次のことがらから反省してみようと思いたちました。

●年中行事社会行事を子どもたちはどう認識しているか。

●それを行なっているおとな、とくに家庭の人々がどう理解して行なっているか。

●保育に取り上げている教師はどの位理解して取り上げているか。

●正しい歴史的社会的な意味やうつり変りを調べ、私たちおとなの認識と比較して、正しい意義ある保育活動としての取り上げ方を考えてみる。

などが反省されました。そこで私の園だけでは、地域差や、人数の点で傾向にかたよりがあるので、よい協力者が欲しいと考え、三、四名の方々に私の考えを話しました。すると皆さんも疑問をもっていて、一しょに考えてみようということになり協力して研究してみることになりました。

まず思いたった行事、節分から手をつけました。

一、節分てなーに。(子どもや家人の認識調査)

●今までの教師が先に立った導入をやめ、(節分の話や説明をさけ)

イ、こどもたちに節分の経験の有無を聞く。

ロ、節分てなーに、どうしてやるの、と発問し、その認識の程度を調べる。

ハ、母親や家人に、なぜやるのか聞いて発表しあう。家人特に母親の認識を調べる。

(質問紙にすると辞書で調べてしまったり人にきいたりして自分の考えとちがう答がでてしまうので、子どもたちが口答で聞いてきて発表しあうことにした。おぼえの悪い子や、通園の遠い子らの中には忘れてしまう子もいるが、二、三日かけて（先生におしえてねと期待を持たせ）気らくに発表しあうことにし、忘れたのはあまり気にせず記録することにした。)

〈**結果の比較**〉

(イ) **経験の有無**

足立区江戸川区の下町の幼稚園では、約80％位が経験しており、文京区大田区の山の手は50～40％位しか経験していないのでこれだけでも大きな差があることがわかった。

次に私たちの興味をひいたのが子ども及び親の理解です。

(ロ) **幼児の理解**（発言順）

〔足立区〕

。鬼っていうのがいてね、それに豆をぶつけて遊ぶのよ。（女児）

。鬼って雷様かな、でもちがうね、豆まくとよけいにおこって雷ならすね。（男児）

。鬼は赤ん坊の時おへそを取ってつくだににしたからそれをかえしてもらうために豆まきするんだよ。（男児）

。おばけのことで、おばけにぶつけるの。（女児）

あとの大半はわからない、無言　などでした。

〔江戸川区〕

。鬼って人間かなあ、動物かなあ、わからないね　だからまめぶつけるんでしょ。

。鬼にぶつけておいはらうの。

。悪いものをおいはらうの。

。子どもの遊びでしょ。

。わからない、しらない　が大半

〔文京区〕

。家ん中の悪ものをおっぱらうの。

。鬼は七色かめんみたいなものだから悪いやつだから豆ぶつけてこらしめるの。

。どうして豆なんかまくのかね、僕だったら石ころをなげるな、その方がいたいもの、大きな石のがいたいけどおもいから　僕小さいからね　小さい石を両手で一杯ぶつけちゃうな。という発言もありました。

。なんだかしらない、わからない。

〔大田区〕

導入してしまったので調べられませんでした。

(ハ) **母親、家人の理解**

〔足立区〕

。鬼は悪いことやるからだって。

。昔からやっていたことだからだって。

。豆まきやんないと悪い鬼が家ん中に入っちゃうからだって。

。お母ちゃんのいうこと聞かない鬼や、泣く鬼や、お金使う鬼をおいだすんだって、豆まいて。

。病気やなんかおっぱらうんだって。

〔江戸川区〕

。おばあちゃんやおじいちゃんがやってたことだからだって。

。長い間家でやってるうちの行事だって、(行事って豆まきのことなの）ときいた。

。やくをはらうんだって。

。大昔からやってたんだって。

〔文京区〕

。日本の昔の人がやったことだって。

。病気の災難をおっぱらっていい事があるようにだって。

。春になるっていうしるしなんだって、だから春は悪い病気がはやるから、それをおいだすんだって。

〔大田区〕　調査せず。

私は興味をもってここまで調べたのですが、あまりにも思いがけない認識のしかたをしているのにおどろくと共に、私たち教師の責任と、おとなの責任を強く感じました。（何といいかげんな認識なのだろうと）

そしてあわてて書物を調べてみました。まず年中行事辞典、宮尾しげを氏の年中行事をむさぼりよんだのです。そして、また再びおどろきとこわさを味わって体をこわばらせたのです。あまりにも一般に行なわれている行事が正しい歴史的な意味からかけはなれているかを知り、それは歴史を作っている私たちの責任であると感じたのです。

〈**考察**〉

。正しい歴史的な考察と幼稚園でのあつかい方。

。歴史的考察。

節　分

・日本の五節句の一つであり二月三日をせちぶんといい立春に移る時期のことをいいこれが節分と変ってきた。

・初春の節に入るのでその晩を年越という。そしてその年越は神様方のお正月に入るためのものである。

・厄鬼を追い払うものであり古くは鬼やらいといって天皇のいる禁中の行事であったのが民間に伝ったのである。（行事辞典）

豆まき

壮健・忠実であること、無事であることを「まめ」ということから豆まきを行なうようになった。

・ひいらぎの枝に、イワシの頭をさして門にさげるのは、かぐ鼻という悪鬼がいて年越になると人をさらってたべた、その鬼が鰯の頭をおそれていたというので、鬼の侵入を防ぐために行なった。これは支那時代の伝説が伝っているものである。（宮尾しげを氏　年中行事）と歴史的な移り変りが正しく理解できた。

私の行なってきた節分の反省と、今後のあり方

私は今まで豆まきとは、立春の季節的な行事で節をわけるというのだろう、その時に日本古来のしきたりで厄払をするのだ位しかわかっていませんでした。そして、節分と豆まきをごっちゃにして行ない、特に豆まきに重きをおき、幼稚園でも行事としてとりあつかっていたのです。そして、生活発表のようなかたちで、幼児たちが経験発表することなどによって、鬼打豆を年の数より一こ多くひろ

って（家族全員が）白紙につつみ、それで体をなぜ、（特に弱い所をたんねんに）四つ角にすててくることが行なわれていることを知ったのです。そして、それが正しいと思っていたのです。ところが行事辞典に目を通してみて、まちがえて伝わってきてしまったのではないかときづいたのです。それは、三月のひなまつりの部をみた時、ひなまつりは、流しびなが変ってきたもの（人型の紙で体をなぜ川に流し厄払いをする）（行事辞典）とありました。これがまめまきのひろった豆で体をなぜるのとごちゃごちゃになってしまったのではないかと思われるからです。

私の行なった節分をふりかえると、充分説明し、話し合って展開していったつもりでも、鬼・福の神のお面を作っている時など、「これ作ってどうするの、どうしてそういうのやるの。」などの質問がとびだします。（活動のさせ方のまずさもあるのですが）子どもたちのものになっていないのです。

だから私は、幼稚園でとりあげる行事（年中行事、社会行事）は、幼児の興味が強く、教育目的を達成する上から行なうことが効果的だと考えられるものを子どもの側に立っての展開でなくてはならない（まちがえ）と思うのです。（古くからのつたえとあまんじていてはいけない）

だから幼稚園でとりあげる節分は、

・立春という季節感を知らせるだけでよいのではないでしょうか。

・宗教的な行事として特定の幼稚園がとりあげるのならよいが、一般幼稚園ではとりあげる必要はないと思います。（私などこれをとりあげることによって活動が途切れてしまうことの方が多く、困ることの方が多いのです。与え方のまずさもありますが。）

・豆まきなどは、家庭での経験を発表しあい必要に応じて、さらりと再現してみる程度でよいのではないかと強く考えられます。いくら幼稚園が一つの奨励の場であると考えても適切な活動でないと思われるのです。

終りに節分を調べていて、おもしろいと思ったことは、鬼・豆まき・神様・ひいらぎ・鰯などのことは辞典・書物にかかれているのですが、お面のこと、（福・鬼のお面）のことは、どの書物にもでていなかったことです。これは年中行事の研究にもう一つの課題をなげかけていると気づいたのです。

近代（明治・大正・昭和）の幼稚園で取りあげた年中行事のうつりかわりを考えてみなくては解決しないと思われるからです。

お面（幼稚園が主に行なっている具体的活動）は、いつ、だれが、どう考えて行なわれてきたか、などが問題になるのではないでしょうか。私は、お正月の福笑いが、そのまま使われているのではないかなどと想像しているのですが。

これから後は、ひなまつり、おひがん、子どもの日、母の日、七夕、など幼稚園で取り上げられる行事を、子どもとともに、反省しながら、新しい方法で行なっていきたいと考えております。

＊　＊　＊

（足立区立関屋幼稚園）